

地方都市におけるプロ野球経営に関する一考察 ～東北楽天ゴールデンイーグルスに注目して～

A Study of Professional Baseball Team Management in Rural Areas ～Focusing on the Tohoku Rakuten Golden Eagles～

1K03B167-3 氏名 北條新二

指導教員 主査 原田宗彦 先生 副査 間野義之 先生

第1章 緒言

プロ野球は今まさに大きな岐路に立っている。去年、東北楽天ゴールデンイーグルスが51年ぶりに新規参入を果たし、また今年には北海道に本拠地を移転した日本ハムが44年ぶりに日本一を勝ち取った。確実に地方都市での経営が注目され始めている。本研究では地方都市の球団経営の特徴はどういったものかを考察し、研究目的とする。

研究方法は、まずプロ野球産業の現状や構造的な諸問題を把握するために、プロスポーツ産業やプロ野球に関わる書籍、新聞記事、インターネット上の資料を参考文献とした。また地域密着に基づいた地方都市でのプロ野球経営の特徴を深く理解する上で、東北楽天ゴールデンイーグルスの職員である鐵智文氏にご協力いただき、インタビュー調査を行った。

第2章 結果Ⅰ：プロ野球経営の現状と課題

2004年に起きたプロ野球再編問題において2リーグ制か1リーグ制で運営するかが議論となった時に、各球団オーナーの排他的・利己的な側面が問題になった。今の球団オーナーやコミッショナーにはプロ野球産業において12球団の共存・共栄という考えが欠如しているのが現状であると思う。Jリーグやアメリカの4大リーグのように競争と共存を両立させることができる制度や環境づくりが急務であることは間違いないであろう。

第3章 結果Ⅱ：プロ野球経営において鍵となるもの

球団格差を実力的にも、財政的にも是正するためにいくつかの諸制度の実施を検討してみる。まず、実力均衡のために完全ウェーバー制の導入、またごく一部のスター選手だけが権利行使しているFA制度の見直しについて検討してみる。

また財政的な均衡を保つために、課徴金制度・所得分配制度やサラリーキャップの導入について検討し、導入の可能性を探ってみた。

次にリーグ運営の見直しについて検討する。まずはコミッショナーの権力拡大である。各球団のオーナーよりも大きな権力を有していないと、コミッショナーとして力を発揮できないと考えられる。

またNPBにはオーナー会議や実行委員会などが存在しているが、役員同士の連携がうまく取れていない。組織の一本化が必要な手立てとなる。

第4章 結果Ⅲ：地方都市での球団運営の事例と考察

ここでは鹿島アントラーズ・アルビレックス新潟・北海道日本ハムファイターズ、インタビュー調査を実施した東北楽天イーグルスの事例を取り上げた。地方都市の球団経営では地域密着が大きな鍵となる。また東北楽天では、独立採算制やまた行政との関係強化により初年度黒字化を達成した。その経営は多くの球団にとって参考とビジネスモデルとなる優れたものと言える。

第5章 結論及び考察

リーグ運営ではサラリーキャップなどの導入、NPB組織の一本化による連携強化、球団経営では独立採算制の採用、球団と球場の関係改善などが必要であるとわかった。これらを踏まえた上で、地方都市での新規球団運営を期待し、4リーグ16球団という新たなビジネスモデルについて考察を施した。地方都市にはまだまだ大きな可能性が残されている。

第6章 まとめ

プロ野球球団が地方都市のあらゆるところに誕生し、国民の生活に浸透すれば、日本プロ野球の価値も上昇するであろう。また世界一の球団を決めるような世界的な大会が開催されれば、夢も大きく膨らむ。アジアでの大会は近年行われるようになったことを考えると、世界大会を十分に可能であろう。プロ野球にとって必要なことは裾野を大きく広げること、そして常に世界を視野に入れることの2つである。